

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月8日
【四半期会計期間】	第106期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	セントラル硝子株式会社
【英訳名】	Central Glass Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 清水 正
【本店の所在の場所】	山口県宇部市大字沖宇部5253番地 (上記は登記上の本店所在地であります。)
【電話番号】	(0836)22-5035
【事務連絡者氏名】	宇部工場管理課長 大槻 洋右
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区神田錦町3丁目7番地1
【電話番号】	(03)3259-7111
【事務連絡者氏名】	経理企画課長 山田 史朗
【縦覧に供する場所】	セントラル硝子株式会社本社事務所 (東京都千代田区神田錦町3丁目7番地1) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第105期 第2四半期連結 累計期間	第106期 第2四半期連結 累計期間	第105期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年9月30日	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (百万円)	112,312	109,618	229,901
経常利益 (百万円)	5,531	3,968	11,169
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	4,313	2,577	7,577
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	5,384	511	4,336
純資産額 (百万円)	179,749	165,883	168,931
総資産額 (百万円)	323,616	293,999	307,103
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	106.58	63.68	187.23
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	54.5	55.3	53.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	5,568	9,933	12,650
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	11,228	4,074	14,336
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,776	6,139	291
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	19,321	20,502	21,023

回次	第105期 第2四半期連結 会計期間	第106期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年7月1日 至2018年9月30日	自2019年7月1日 至2019年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	63.17	30.89

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 在外子会社等の収益及び費用は、従前、決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間より期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更したため、第105期第2四半期連結累計期間、第105期第2四半期連結会計期間及び第105期連結会計年度は、当該会計方針の変更を反映した遡及適用後の数値を記載しております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況

1. 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報)」に記載のとおりであります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出を中心に弱さが続いているものの、企業収益は依然高い水準で底堅く推移しており、雇用環境や所得の改善が着実に続くなど、景気は全体として緩やかな回復基調で推移しました。

一方、世界経済は、米国では良好な雇用環境を背景に個人消費は堅調に推移しているものの、製造業を中心に景気の減速感が見られ始めており、中国では政府の景気対策により景気減速への歯止めが見られるものの、米中の貿易摩擦の長期化によるさらなる貿易取引の停滞懸念、世界的な地政学的リスクの高まりなどにより、先行きは不透明な状況が続いております。

このような経済環境の下、当社グループは積極的な販売活動を展開いたしましたが、当第2四半期連結累計期間の売上高は109,618百万円と前年同期比2.4%の減少となりました。

損益面につきましては、経営全般にわたる業務の効率化・合理化施策を推進してまいりましたが、経常利益は前年同期比1,563百万円減少の3,968百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比1,736百万円減少の2,577百万円となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、在外子会社等の収益及び費用は、決算日の直物為替相場により円貨に換算する方法から、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更したため、遡及適用後の数値で前年同期比較を行っております。（会計方針変更の詳細は「第4 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。）

また、第1四半期連結会計期間より、当社グループの管理上の区分変更に伴い、従前「化成品事業」に含めておりましたガラス繊維を「ガラス事業」に変更したため、遡及適用後の数値で前年同期比較を行っております。（セグメント区分変更の詳細は「第4 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報）」をご覧ください。）

セグメント別の概況

（ガラス事業）

建築用ガラスにつきましては、首都圏を中心とした出荷が引き続き堅調であり、売上高は前年同期を上回りました。

自動車用ガラスにつきましては、国内は出荷が堅調に推移したことに加え、一部製品の売上を建築用ガラスから自動車用ガラスに区分変更した影響により、前年同期を上回りましたが、海外での景気減速などの影響を受け、売上高は前年同期を下回りました。

ガラス繊維につきましては、電材分野が出荷減となり、売上高は前年同期を下回りました。

以上、ガラス事業の売上高は73,397百万円（前年同期比1.3%減）となり、損益につきましては393百万円の営業利益（前年同期比617百万円の改善）となりました。

（化成品事業）

化学品につきましては、ハイドロフルオロオレフィン製品の出荷量が伸びたことから、売上高は前年同期を上回りました。

ファインケミカルにつきましては、半導体用途の特殊ガス関連製品は三フッ化窒素事業の撤退により出荷が減少し、また医薬品関連製品の販売が低調に推移したため、売上高は前年同期を下回りました。

肥料につきましては、省力肥料の出荷が堅調に推移しましたが、一部製品の需要が減少したことにより、売上高は前年同期並となりました。

以上、化成品事業の売上高は36,220百万円（前年同期比4.5%減）となり、損益につきましては3,282百万円の営業利益（前年同期比1,677百万円の減少）となりました。

(2) 財政状態

当第2四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ、売上債権が7,856百万円、投資有価証券の売却代金の回収などによりその他流動資産が6,177百万円減少したことなどにより、13,103百万円減少し293,999百万円となりました。

負債は仕入債務が2,447百万円、税金の支払等により未払法人税等が2,344百万円、借入金が6,800百万円減少したことなどにより、10,055百万円減少し128,116百万円となりました。

純資産は円高などにより為替換算調整勘定が1,804百万円、株価の下落などによりその他有価証券評価差額金が1,329百万円減少したことなどにより、3,048百万円減少し165,883百万円となりました。また、自己資本比率は1.5ポイント増加し55.3%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は前連結会計年度末に比べ、520百万円減少し、20,502百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金収支は、税金等調整前四半期純利益3,903百万円、減価償却費6,259百万円などにより、9,933百万円の収入(前期は5,568百万円の収入)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金収支は、ファインケミカル製品等生産設備の拡充等に伴う有形固定資産の取得による支出7,727百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入3,935百万円などにより、4,074百万円の支出(前期は11,228百万円の支出)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金収支は、配当の支払による支出2,023百万円、借入金等の返済による支出3,498百万円などにより、6,139百万円の支出(前期は2,776百万円の収入)となりました。

(4) 経営方針、経営環境及び対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

(イ) 基本方針の内容の概要

当社は、当社株主は市場における自由な取引を通じて決定されるものと考えております。従って、当社の支配権の移転を伴うような当社株式の買付けの提案に応じるか否かのご判断も、最終的には株主の皆様の自由な意思に基づいて行われるべきものと考えております。

しかしながら、当社株式の大規模買付け行為の中には、()買収の目的や買収後の経営方針等に鑑み、株主の皆様の共同の利益(以下、単に「株主共同の利益」といいます。)に対する明白な侵害をもたらすもの、()株主の皆様に株式の売却を事実上強要するもの、()当社取締役会が、大規模買付け者が提示する買収提案や事業計画等に代替する事業計画等を提示するために合理的に必要となる期間を与えないもの、()株主の皆様に対して、買付内容を判断するために合理的に必要となる情報や時間を十分に提供することなく行われるもの、()買付けの条件等(対価の価額・種類、買付けの時期、買付けの方法の適法性、買付けの実行の蓋然性等)が当社の企業価値に鑑み不十分又は不適当なものも想定されます。当社といたしましては、株主共同の利益を最大化すべきとの観点に照らし、このような大規模買付け行為を行う大規模買付け者は、例外的に、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当でないと考えております。

そこで、当社は、当社が生み出した利益を株主の皆様還元していくことで株主共同の利益を最大化することを本分とし、市場における自由な取引を通じて当社株主となられた方々にお支え頂くことを原則としつつも、大規模買付け行為により、このような株主共同の利益が毀損される場合には、かかる大規模買付け行為を行う大規模買付け者は当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であるものとして、法令及び定款によって許容される限度において、株主共同の利益の確保・向上のための相当な措置を講じることをその基本方針といたします。

(ロ) 基本方針策定の背景

当社の事業は、建築用ガラス、自動車用ガラス、ガラス繊維等の製造・販売等を行うガラス事業、及び、化学品、肥料、ファインケミカル製品の製造・販売等を行う化成事業から構成されており、当社の経営には、1936年の会社設立以来蓄積された専門知識・経験・ノウハウ、従業員、工場・生産設備が所在する地域社会、及び、国内外の顧客・取引先等との間に築かれた長期的取引関係への理解が不可欠であります。また、当社は、ファインケミカル製品を中心とした成長分野である高機能・高付加価値製品分野への経営資源の重点的な投入により、中長期的な視点から企業価値を増大させるべく努めることとしており、このような当社の事業特性に対する理解なくしては当社の企業価値を向上していくことは困難であり、また、株主共同の利益の維持・向上のためには、濫用的な買収等を未然に防ぎ、中長期的な観点からの安定的な経営を行うことが必須であると考えています。当社といたしましては、生産販売体制の強化と原価低減の推進等の経営全般にわたる効率化を進めるとともに、基幹事業における構造改革の推進、研究開発及び技術開発の強化、成長分野への経営資源の重点的な投入や海外展開の加速により、グループ企業力の強化に取り組んでおります。

しかしながら、昨今、新しい法制度の整備や資本市場の情勢、経済構造・企業文化の変化等を背景として、対象となる会社の経営陣の賛同を得ることなく、一方的に大量の株式の買付けを強行するといった動きが見られる

ようになり、場合によっては上記の取引関係や経営資源、適切な企業集団の形成等に基づく当社の持続的な企業価値の維持及び向上が妨げられるような事態が発生する可能性も否定できない状況となってまいりました。

当社といたしましては、このような動きに鑑み、大規模買付者が現われる事態を常に想定しておく必要があるものと考えます。なお、当社といたしましては、あらゆる大規模買付行為に対して否定的な見解を有するものではありません。

以上の事情を背景として、当社は上記（イ）の通り基本方針を策定いたしました。

基本方針の実現に資する特別な取組みの概要

当社は、多数の投資家の皆様に中長期的に継続して当社に投資して頂くため、株主共同の利益を向上させるための取組みとして、下記（イ）の中期計画等による企業価値向上への取組み、及び、下記（ロ）のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方に基づくコーポレート・ガバナンスの充実のための取組みを実施しております。これらの取組みを通じて、株主共同の利益を向上させ、それを当社の株式の価値に適正に反映していくことにより、上記のような株主共同の利益を毀損する大規模買付行為は困難になるものと考えられ、これらの取組みは、上記の基本方針の実現に資するものであると考えております。

（イ）中期計画等による企業価値向上への取組み

（a）当社グループの経営の基本方針

当社グループの経営の基本方針の具体的な内容につきましては、第105期有価証券報告書「第2 事業の状況

1. 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (1) 経営方針、経営環境及び対処すべき課題」をご参照下さい。

（b）中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、2018年度を初年度とする中期計画を策定しております。

かかる中期計画の具体的な内容につきましては、第105期有価証券報告書「第2 事業の状況 1. 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (1) 経営方針、経営環境及び対処すべき課題」をご参照下さい。

（ロ）コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方等

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方並びに当社の機関及び内部統制体制の整備の状況等につきましては、第105期有価証券報告書「第4 提出会社の状況 4. コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの概要」をご参照下さい。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの概要

当社は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上を図るため、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めるとともに、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとして、「当社株式の大規模買付行為に関する対応方針」（以下、「本対応方針」といいます。）を継続してまいりました。

しかしながら、本対応方針の導入以降の経済情勢、市場の動向、当社の株主構成を含めた当社を取り巻く経営環境の変化やコーポレートガバナンス・コード及び日本版スチュワードシップ・コードの制定後の買収防衛策に関する議論の状況等を考慮しつつ、慎重に検討した結果、本対応方針の有効期間である2019年6月27日開催の当社第105回定時株主総会の終結の時をもって、本対応方針を継続せず廃止することといたしました。

なお、当社は、引き続き、基本方針に基づき当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に取り組むとともに、当社株式の大規模な買付行為を行おうとする者に対しては、大規模な買付行為の是非を株主の皆様が適切に判断するために必要かつ十分な情報の提供を求め、あわせて当社取締役会の意見等を開示し、株主の皆様の検討のための時間の確保に努める等、金融商品取引法、会社法その他関係法令に基づき、適切な措置を講じてまいります。

上記 及び の各取組みについての取締役会の判断及びその理由

上記 及び の各取組みは、いずれも上記の基本方針に沿うものであり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致するものと考えております。従いまして、当社は、これらの取組みにつきまして、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、また、当社の役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

（5）研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2,958百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	171,903,980
計	171,903,980

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	42,975,995	42,975,995	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	42,975,995	42,975,995	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	42,975	-	18,168	-	8,075

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
野村 絢 (常任代理人 三田証券株式会社)	NASSIM ROAD, SINGAPORE (東京都中央区日本橋兜町3-11)	2,463	6.08
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産 管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1-8-12	2,017	4.98
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	1,994	4.92
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カ ストディ業務部)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3-11-1)	1,891	4.67
日本トラスティ・サービス信託銀行株式 会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,841	4.55
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カ ストディ業務部)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3-11-1)	1,006	2.49
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク、エヌ・エ イ東京支店)	PALISADES WEST 6300, BEECAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US (東京都新宿区新宿6-27-30)	974	2.41
NOMURA AYA (常任代理人 シティバンク、エヌ・エ イ東京支店)	CUSCADEN WALK, SINGAPORE (東京都新宿区新宿6-27-30)	869	2.15
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・山口銀行口)	東京都港区浜松町2-11-3	860	2.12
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-11	820	2.03
計	-	14,740	36.39

(注) 1. 上記のほか、当社が保有している自己株式が2,473,651株あります。

2. 2019年8月22日付で公衆の縦覧に供されている変更報告書において、株式会社南青山不動産及びその共同保有者である野村絢氏が、2019年8月15日付でそれぞれ次の通り株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況は株主名簿に基づいて記載しております。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券 保有割合 (%)
株式会社南青山不動産	東京都渋谷区東3-22-14	株式 326	0.76
野村 絢	NASSIM ROAD, SINGAPORE	株式 3,214	7.48

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,537,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 40,352,000	403,520	-
単元未満株式	普通株式 86,995	-	-
発行済株式総数	42,975,995	-	-
総株主の議決権	-	403,520	-

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
セントラル硝子株式会社	山口県宇部市大字 沖宇部5253	2,473,600	-	2,473,600	5.76
宇部吉野石膏株式会社	山口県宇部市大字 沖宇部5254-11	63,400	-	63,400	0.15
計	-	2,537,000	-	2,537,000	5.90

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について八重洲監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,732	21,089
受取手形及び売掛金	53,245	45,388
商品及び製品	27,544	30,295
仕掛品	4,745	4,793
原材料及び貯蔵品	18,433	18,274
その他	10,909	4,731
貸倒引当金	674	660
流動資産合計	135,937	123,913
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	30,279	30,386
機械装置及び運搬具(純額)	51,127	53,397
土地	25,732	25,673
建設仮勘定	8,256	5,409
その他(純額)	3,705	4,221
有形固定資産合計	119,101	119,088
無形固定資産		
のれん	55	-
その他	1,691	1,560
無形固定資産合計	1,746	1,560
投資その他の資産		
投資有価証券	42,549	40,900
その他	8,021	8,790
貸倒引当金	253	254
投資その他の資産合計	50,317	49,436
固定資産合計	171,165	170,086
資産合計	307,103	293,999

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,251	19,804
短期借入金	19,638	16,418
未払法人税等	3,459	1,115
賞与引当金	1,473	1,495
損害賠償引当金	8	-
その他	20,802	22,175
流動負債合計	67,634	61,010
固定負債		
社債	30,400	30,400
長期借入金	23,312	19,731
役員退職慰労引当金	12	3
特別修繕引当金	6,107	6,389
事業構造改善引当金	2,584	2,394
環境対策引当金	19	20
顧客補償等対応費用引当金	5	3
退職給付に係る負債	7,661	5,894
その他	432	2,268
固定負債合計	70,536	67,105
負債合計	138,171	128,116
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,168	18,168
資本剰余金	8,109	8,109
利益剰余金	129,474	130,038
自己株式	6,395	6,396
株主資本合計	149,356	149,919
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,211	14,882
繰延ヘッジ損益	136	25
為替換算調整勘定	753	2,558
退職給付に係る調整累計額	321	364
その他の包括利益累計額合計	15,916	12,663
非支配株主持分	3,659	3,300
純資産合計	168,931	165,883
負債純資産合計	307,103	293,999

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
売上高	112,312	109,618
売上原価	89,308	87,172
売上総利益	23,004	22,446
販売費及び一般管理費	18,268	18,770
営業利益	4,736	3,675
営業外収益		
受取利息	36	53
受取配当金	711	549
持分法による投資利益	160	112
為替差益	374	-
その他	646	897
営業外収益合計	1,930	1,613
営業外費用		
支払利息	302	328
為替差損	-	252
その他	832	740
営業外費用合計	1,134	1,321
経常利益	5,531	3,968
特別利益		
固定資産売却益	661	-
投資有価証券売却益	26	0
特別利益合計	687	0
特別損失		
固定資産売却損	-	0
減損損失	-	60
投資有価証券売却損	-	4
特別損失合計	-	64
税金等調整前四半期純利益	6,219	3,903
法人税等	1,540	1,064
四半期純利益	4,679	2,838
非支配株主に帰属する四半期純利益	365	261
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,313	2,577

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	4,679	2,838
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,012	1,325
繰延ヘッジ損益	176	161
為替換算調整勘定	1,348	1,788
退職給付に係る調整額	12	42
持分法適用会社に対する持分相当額	123	117
その他の包括利益合計	705	3,350
四半期包括利益	5,384	511
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,134	676
非支配株主に係る四半期包括利益	249	164

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,219	3,903
減価償却費	6,107	6,259
減損損失	-	60
のれん償却額	2	6
引当金の増減額(は減少)	225	98
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	25	1,705
受取利息及び受取配当金	748	603
支払利息	302	328
持分法による投資損益(は益)	160	112
投資有価証券売却損益(は益)	26	4
固定資産売却損益(は益)	666	97
固定資産廃棄損	223	237
売上債権の増減額(は増加)	1,007	7,482
たな卸資産の増減額(は増加)	2,931	3,172
仕入債務の増減額(は減少)	1,305	2,251
未払消費税等の増減額(は減少)	1,142	1,040
未払費用の増減額(は減少)	313	920
その他	579	2,403
小計	6,895	12,960
利息及び配当金の受取額	841	669
利息の支払額	316	344
法人税等の支払額	1,852	3,352
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,568	9,933
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	755	448
定期預金の払戻による収入	571	539
有形固定資産の取得による支出	9,143	7,727
有形固定資産の売却による収入	984	134
投資有価証券の取得による支出	2,412	423
投資有価証券の売却及び償還による収入	34	3,935
事業譲受による支出	217	-
その他	289	85
投資活動によるキャッシュ・フロー	11,228	4,074
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	3,999	2,769
コマーシャル・ペーパーの純増減額(は減少)	3,000	3,000
長期借入金の返済による支出	2,912	3,729
自己株式の取得による支出	1	0
配当金の支払額	1,011	2,023
非支配株主への配当金の支払額	345	522
非支配株主からの払込みによる収入	52	-
その他	5	93
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,776	6,139
現金及び現金同等物に係る換算差額	280	282
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,604	563
現金及び現金同等物の期首残高	21,925	21,023
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	42
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,321	20,502

【注記事項】

(会計方針の変更)

(在外子会社等の収益及び費用の本邦通貨への換算方法の変更)

在外子会社等の収益及び費用は、従前、決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間より期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更しております。この変更は、在外子会社等の重要性が増してきたため、一時的な為替相場の変動による損益等への影響を緩和し、在外子会社等の業績をより適切に連結財務諸表に反映させるために行ったものであります。

当該会計方針の変更を遡及適用し、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。

この結果、遡及適用前と比べ、前第2四半期連結累計期間の売上高は57百万円減少し、営業利益は29百万円、経常利益は35百万円、税金等調整前四半期純利益は35百万円及び親会社株主に帰属する四半期純利益は21百万円それぞれ増加しております。

また、前連結会計年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の前期首残高は98百万円減少し、為替換算調整勘定の前期首残高は同額増加しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

強化ガラス及び耐熱強化ガラスについては、一般的に極めて稀にガラス内に含まれる除去不可能な異物が膨張することによって外力が加わらない状態で自然に破損するケースが確認されております。当社においては、このような自然破損の発生確率を低減させる措置として対象の製品につきましては製造後に再加熱処理を実施し、異物が含まれていた場合に強制的に膨張させ工程内で破損させる処理を行うこととしておりますが、当社の生産委託先である富士ハードウェア株式会社が過去に製造した対象製品の一部について、当該処理を行わずに製品を出荷していたことが前連結会計年度に判明しました。

本事案の今後の進捗次第では、顧客等への補償費用を始めとする損失等の発生により、当社の連結業績に影響を及ぼす可能性があります。現時点でその影響額を合理的に見積ることが困難なものについては、四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
販売運賃及び諸掛	4,087百万円	4,234百万円
従業員給与等	5,510	5,449
賞与引当金繰入額	308	304
退職給付費用	190	222
貸倒引当金繰入額	5	30

(注) 在外子会社等の収益及び費用は、従前、決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間より期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更したため、前第2四半期連結累計期間は、当該会計方針の変更を反映した遡及適用後の数値を記載しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	20,220百万円	21,089百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	898	586
現金及び現金同等物	19,321	20,502

(株主資本等関係)

1 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月23日 取締役会	普通株式	1,011	25.00	2018年3月31日	2018年6月7日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、関係会社に対する配当金0百万円を含めていません。

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
 末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年10月31日 取締役会	普通株式	1,011	25.00	2018年9月30日	2018年12月3日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、関係会社に対する配当金0百万円を含めていません。

2 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月22日 取締役会	普通株式	2,023	50.00	2019年3月31日	2019年6月6日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、関係会社に対する配当金1百万円を含めていません。

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
 末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年10月31日 取締役会	普通株式	1,517	37.50	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、関係会社に対する配当金1百万円を含めていません。

(セグメント情報)

- 1 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	ガラス事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	74,374	37,938	112,312	-	112,312
セグメント間の内部 売上高又は振替高	33	580	614	614	-
計	74,408	38,519	112,927	614	112,312
セグメント利益又は損失() (営業利益)	223	4,959	4,736	-	4,736

(注) 調整額は、セグメント間取引消去であります。

- 2 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
 (1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	ガラス事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	73,397	36,220	109,618	-	109,618
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6	591	597	597	-
計	73,403	36,812	110,216	597	109,618
セグメント利益(営業利益)	393	3,282	3,675	-	3,675

(注) 調整額は、セグメント間取引消去であります。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は2019年4月23日開催の取締役会において、当社グループの管理上の区分変更を決議いたしました。これに伴い、従前「化成品事業」に含めておりましたガラス繊維を、第1四半期連結会計期間より「ガラス事業」に含めることに変更しております。

また、「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より在外子会社等の収益及び費用の本邦通貨への換算方法について会計方針の変更を行っております。この変更に伴い、前第2四半期連結累計期間については、遡及適用後の数値で記載しております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第2四半期連結累計期間の外部顧客への売上高がガラス事業で3,661百万円増加し、化成品事業で3,718百万円減少しております。また、セグメント損失がガラス事業で190百万円減少し、セグメント利益が化成品事業で160百万円減少しております。

- 3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
 該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(単位:百万円)

	ガラス事業	化成品事業	合計
減損損失	49	11	60

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益	106円58銭	63円68銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	4,313	2,577
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	4,313	2,577
普通株式の期中平均株式数(千株)	40,472	40,470

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2. 在外子会社等の収益及び費用は、従前、決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間より期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更したため、前第2四半期連結累計期間は、当該会計方針の変更を反映した遡及適用後の数値を記載しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

決算日後の状況

特記事項はありません。

配当について

2019年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当を次のとおり決議しました。

- | | |
|-----------------------|------------|
| (イ) 中間配当による配当金の総額 | 1,518百万円 |
| (ロ) 1株当たりの金額 | 37円50銭 |
| (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 2019年12月2日 |
- (注) 2019年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録質権者に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月7日

セントラル硝子株式会社

取締役会 御中

八重洲監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 三井 智宇 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 渡邊 考志 印

業務執行社員 公認会計士 西山 香織 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているセントラル硝子株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、セントラル硝子株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。